

平成24年12月

[配布先：全組合員]

市場情報

日時 平成24年12月7日（金） 11時30分～14時
場所 名古屋キャッスルプラザ B1「佐久良」
出席数 酒匂委員長他 16名(最終頁参照)
経過

1. 酒匂委員長挨拶

来年に期待し気を引き締めて難局を乗り越えよう

来年は今年より良くなるだろう。良くなってくれないと困る。気を引き締めてやらないと、今の悪い状況はなかなか歯止めが効かず、底へズルズル引っ張られてしまう感じがする。今年の初めには、橋梁や建築鉄骨の盛り上がりを期待していたが、年中行事のように、端境期入りとか、着工遅延とか、開札のズレなどの理由で、底這ったまま、あっという間に一年が過ぎてしまった。またこの間、堅調だった建産機部門までが夏以降落ち込み、シャーへの衝撃度は極めて大きいものがある。切板需要の両輪が底割れ状態の中で、来年は必ず回復すると声を張り上げても、氣勢が上がるわけがない。とは言え悲観論は言いたくない。これからまず、狩猟民族のように、自分で新たな分野に飛び込んで何かを掴み取るしかない。来年の今頃は少しでも明るい話ができるように、皆さんと一緒に気を引き締めて頑張りましょう。良いお年をお迎え下さい。

2. 各地区の需要動向

【北海道】

建築鉄骨は増加基調に、橋梁は半減状態

11月18日、いよいよ北海道の上空に真冬並みの寒気が入り込み平野部でも降雪を見た。

『市場情報 H24.12』

その後、徐々に積雪が続いており遅ればせながらも、どうやら少な目の本格的な根雪シーズンに移りつつある。

この初雪観測は札幌管区气象台によると、札幌市内では統計を取り始めた1876年以来、最も遅かった1890年の11月20日に次ぐ2番目の遅さとなった。

また、旭川市は1888年の統計開始後、最も遅い初雪という。旭山動物園においては、北国生まれのペンギンや北極グマが、どんどん降り積もった雪の上で「わが世の春？」とばかり、生き生きと動き回り多くの来園者を楽しませていたようだ。

そして月末の27日、発達した低気圧の通過によって、ほぼ全道的に暴風や猛烈な吹雪に見舞われ、特に胆振管内（室蘭・登別地区）の広い範囲に被害が拡大した。強風に伴う送電用鉄塔の倒壊や断線により、約5万6千戸が停電。一部の総合病院では外来診療と手術を取止めたほか、企業やホテル、金融機関などが営業を停止した。市街地においては信号が消え、市民生活では冬場に暖房が使えないといった大混乱に陥った。あれもこれも、異常気象の影響かと危惧されるどころ。

鉄鋼業界は年初、「景気回復の年」と位置付けて大いに期待する幕開けとなった。しかしながら現状をみると、震災復興はもとより内需喚起による経済政策・デフレ退治など積極的な成長戦略は、政治混乱の陰で実施効果が全く感じられず裏切られた格好だ。

北海道地域の建築関連需要と価格構造は、元請であるゼネコン業界の激しい過当競争の悪しき影響で、起用ファブへの単価シワ寄せが際立つ。

必然的に切板発注に対しても、今なお指値は厳しい安値基調から脱出できていない。本州鉄骨物件とともに、絶対必要不可欠の販売価格さえ底打ちの状態を余儀なくされている。従って、是正は思うように進まず、危機的とも言える極めて厳しく難しい状況が持ち越されている。

【鉄骨】建築着工統計による'12年1～9月の鉄骨重量の推計累計は、合計114,300ト（前年98,300ト）で、対前年度比16.3%の増加となった。

また、需要の先行指標となる同年1～11月の北海道機械工業会鉄骨部会道央支部の共同積算数量は、合計125,000トで前年（99,723ト）実績に比べ25.3%上回ったが、平年比では72%となっている。

道内ファブは、首都圏をターゲットとした本州の大型鉄骨物件への対応。地元においては、目玉3物件（三井JPビル、北海道新幹線函館車両基地、札幌競馬場）が相次いで着工され、倉庫や店舗など中小案件も動き出した。

このようなことからHグレードを中心に、Mグレードまでフル操業の状態が続いている。

大手ファブの各社は、受注単価の健全・適正化に向けた結束の動きは固かった。目標を「今年

『市場情報 H24.12』

こそ鉄骨単価1万円の底上げへ」と高く掲げている。

安値先行のゼネコンに対し選別受注を実践し、2,500～5,000トンの3物件に対し「現状価格では対応できない」と受注を見送った。結果、仕事は低価格のまま大手ゼネコン傘下の道外ファブに流れてしまった。

地元物件が道外ファブに流出することはあまり見られず非常に稀有な出来事。道内ファブが真剣に取り組む「1万円の値上げ見込み」は肩透かしを食った感じ。市場では再び熾烈な受注競争に戻り、大手ゼネコンの安値受注物件の煽りをまともにくらう状況に置かれている。

先行きの見通しは、道央圏では再開発事業や大型店舗などが計画されており、需要環境は明るい。逆に十勝・道東・道北地区は、年明け後の見積もりも少なく、仕事量も価格も不透明で不安定な状況にある。

【橋梁】今年度の国と道や市町村発注の橋梁需要は、昨年度比半減となっている。

大型案件は少なく全体で10,000トンを割り込むのではとの予想に対し、実際の発注量は4,000トン弱と大幅に縮減の見込み。

ファブ間で受注量に格差偏重がみられており、工場の稼働は運営面で一段と深刻な度合いを増すものと憂慮されている。

こうした厳しい環境に鑑み端境期対策である、ゼロ国債・補正予算による橋梁発注、老朽化の進んだ橋の延命・耐震対策や補修・補強としての落橋防止装置や鋼製床版工事の早期発注が、なお一層強く望まれている。

【切板】道内における切板需要の構造は、周知の通り建築関連や土木・橋梁用が主体である。このうち、建築向けは首都圏や周辺都市の大型建築物件とともに、地元の物販店・物流施設、農業用施設などが相次いで発注されている。

シャー各社は、H・Mグレードのファブを中心とした稼働の回復に支えられ高稼働を維持している。ただ、本州大型物件の加工が端境期に入ったことや、橋梁の大幅受注減で量的には厳しい状況下にある。

また、現在の加工内容は、中／小型鉄骨が主体であること。短納期物や小ロット多品種・小物・型や異型対応が中心となっている。こうした操業面でのボリューム低下に伴い生産数量は減少した反面、残業も必要といったアンバランスはみられるものの比較的高稼働を維持している。

価格構造は前述の通り大手ファブが、ゼネコン業界の超過当競争による安値先行物件に対して結束して選別受注に入っていた。しかしながら、ゼネコン傘下の道外ファブへの物件流出により「鉄骨単価1万円底上げ見込み」は肩透かしに終わった。このため、依然として大手ゼネコンの安値を押し付けられているのが実情と改善はみられていない。

『市場情報 H24.12』

つれて、切板に対しても今なお安値基調から脱出が実現しておらず、本州物件、道内大型物件を含めた絶対必要不可欠の販売価格の底打ち是正は悲しいかなほとんど思うように進んでいない。

厚板鋼板の高炉メーカーの価格対応は、輸出のほか造船や建・産機の需要低迷が起因しているのか、建築需要向けに対しても実にマチマチな様子となっている。

ゼネコンの過当競争からくるファブへの安値押し付けを回避していくためには、鋼板の価格維持が絶対条件である。悪循環からの脱却の意味から高炉メーカー、鉄骨ファブ、シャア業界ともに再生産価格を勝ち取ることができるよう、もうひと踏ん張りしなければならない。

(玉造(株)・西村 孝治)

【東 北】

護岸工事用の鋼管杭・矢板の需要は高水準

東北地区は各県、また太平洋側・日本海側で大きく仕事量で差が出ており、特に震災復興工事が真っ盛りの三陸地区は護岸工事中心に鋼管杭・矢板の需要が高く暫くは資材不足・人手不足の状況は続くものと見られ冷蔵冷凍施設・など漁港復旧に関連する各企業は多忙が続く。

仕事量の少ない日本海側の業者の参入で単価が下がる傾向も出て鉄骨量 500 t 未満の案件に競合激化と生産量は少ないが多忙という感がある。

建築環境は足元、大型案件が少ない中 関東物件依存が続いており価格競争力、情報収集力、あらゆる力を結集し需要回復まで各社凌ぎを削っている。

仙台駅東口再開発・地下鉄東西線関連、また福島企業立地補助金での工場立地など明るい材料もあり、年度内の稼動をどう確保していくか、命題となっている。

政治、海外の問題など日本経済全体が閉塞感の中、震災後の東北について報道も少なくなった今、もう一度国内産業を見つめ直し日本のあるべき姿を真のリーダーに統率して欲しいと一個人として強く望むものである。

(J F E 鋼材東北・大柴宏和)

【東 京】

建産機、低迷長期化の様相

比較的好調を持続してきた建産機系シャアは、夏場頃から受注減少が顕著となり始め、残念ながら足元では一部の分野を除き全般に亘り低迷が広がってきている。海外調達及び海外シフトの影響や欧州危機を起点とする景気減速が長期化しそうな情勢を考慮すると、今回の受注低迷は当分続く気配が濃厚と見られる。

【建設機械】 10月の統計では前年比3ヶ月連続でのマイナス。国内向けは全般的に堅調で

『市場情報 H24.12』

22.4%の増加となっているものの、海外向けは中国やその他新興国の不振が大きく足を引っ張って合計では△32.9%の大幅な落ち込みとなった。 今後は復興関連での需要増に望みを託したい。

- ・油圧ショベル 国内の販売は被災地向けも販売増に寄与し前年比でプラスにはいるが、輸出の大幅な落ち込みにより合計で△22.7%。 需要家の生産調整の幅は、在庫調整を狙い販売減よりもさらに大きくなるため、部会シャーでは一時帰休を検討し始めるほどの加工量の大幅減少（30～40%減）となっている。 建機の中では最大ウエイトの機種だけに関係シャーへの影響は大きく、早期の回復に期待したい。
- ・建設用クレーン ラフテレーンクレーンは排ガス規制前の駆け込みもあり足元は堅調を持続している。 しかしながら、規制後の新モデルの販売及び生産がうまく軌道に乗れば良いが、年度明けからは反動減の可能性が高いと見られているだけに、来年度の生産計画も10%程度の減産計画となっている。

クローラクレーンはこれまで長期に亘る低迷が続いていたが、国内新車需要が30%強の増加となっている点や北米向けが回復に転じている事から、6月以降は需要家の生産台数も増えており、ほぼ在庫調整は完了したものと見られる。 今後は急回復は期待できないまでも 販売=生産 の正常な状態になりそうである。

【**鉱山機械**】 鉱物資源需要の減少と価格の下落による鉱山開発の中止・延期から、鉱山機械の売れ行きが激減しこの生産調整は長期化しそうな感がある。 足元の受注では主力機種でピーク時の75%減の加工量となっているものもあるが、概ね下期は上期比40%減前後のレベルまで落ちている。 鉱山機械は主に大型・超大型が対象となるだけに、需要家の生産調整はシャーの加工重量そのものの大幅減少に直結し、長期の活況を予定していた関係シャーは在庫急増の問題も抱え苦悩している。

【**重電**】 国内での原発案件がほぼ停止している中で、火力発電関連は内外ともに案件は多く期待を持ちたいが、需要家の受注がどれだけ部会シャーの加工に結び付くかが問題である。 海外移管は進展しており、この部門も需要の減少と海外シフトのダブルパンチに見舞われている。 また国内火力のリプレース案件は今後も期待の大きいところではあるが、これまではほとんど見られなかった競争入札による調達先分散の動きがある現在では、さらなる競争激化が予想される。

昇降機は発注のタオレから一時的に受注減の現象もあったが、足元は山が高く下期はほぼ前年並みの量を確保できる見込みである。

【**板金・鍛圧機械**】 鍛圧業界の受注動向では10月で△16%。 「世界的な景気減速とエコカ

『市場情報 H24.12』

一補助の終了による国内減速が波及（工業会）」していると見られる。中国・欧州向けの成約減で、部会シャーの加工量は上期比で約△30%の状況まで落ち込んでいる模様。需要家の機械別受注状況では、プレス（△32%）、パンチング（△17%）の大幅減に対しベンダーは+12%と健闘している。

【フォークリフト】 今年度の生産予定は当初横ばい乃至微減の計画ではあったが、足元は一割以上の減産となっている。国内向けは増加（+9%）しているが輸出の減少（△15%）が響き、加工量としては大幅減。需要家の海外への生産移管や業界再編の動きも着々と進展しており、厳しい受注環境は当分続きそうである。

【ダンプ・トレー】 ダンプ・トレーは、排ガス規制前の駆け込みと被災地向けの需要から長期に亘り高操業の状況が続いている。また海外向けとして発電機・変圧器付きトレーラーの大口成約もあり、この部門の年度内操業は確実に堅調さを持続できそうである。

【産機 店売り】 末端実需の不振による長期低迷から未だ回復の見通しが立たない部門である。今年度に入ってから受注量はさらに悪化しており、概ね前年比10%～15%程度は量的に落ち込んでいる模様である。長期に亘る低迷のダメージは大きく、また金融円滑化法の期限切れでの与信問題もあり、まだまだ難しい経営状況が続きそうである。

（ニューエイジ・池田啓志）

【東 京】

建設関連需要は、来春以降へズレ込み

【全 体】

下期に入り、低レベルながらも、足元の橋梁・鉄骨分野は、回復傾向を辿っている。

今後の動向は、橋梁は開札量の進捗いかんによるが、全国総量が伸び悩む中で、シャー切断量は現状レベルで推移する見通し。また大型鉄骨案件の着工遅れの影響は、年度内継続する状況であり、Sファブの山積み回復は来春以降になる見込み。

【橋 梁】

橋梁開札は、上期9万トン前後と年初予想通りであったが、①2Q（特に9月）に集中したこと、また②開札された案件が、ファブの設計工期を要する物件（NEXCO等）であったため、2Qまでのシャー切断量は低位に推移。下期に入り、上期開札案件のファブ加工も開始され、シャー切断量も低レベルながら増基調。

本年度橋梁開札見込み量は、現時点で約25万トンと当初予定から大きく変化ないが、各ファブともこの開札量に懐疑的な見方を持ち始めており、入開札動向を要注視。早期開札量の増加に期待。

【鉄 骨】

首都圏を中とする大型建築物の着工遅れの影響により、Sグレードファブの仕事量は引き続き低迷。シャー切断量も盛り上がりを欠く状況。一方小型案件は、件数も多く、足元のHグレード以下のファブは繁忙の様子。着工遅れの影響は、年度内残る可能性あり。来春以降の加工量増加は確実視されているところだが、足元の“端境期”対応に苦慮。

(富士鉄鋼センター・三浦潔司)

【東 京】

浦安地区の荷動きは相変わらず閑散

浦安地区の一般店売りシャーの状況は、仕事量が少なく、11月は更に悪化し、荷動きは相変わらず閑散としている。浦安地区に出入りしているトラック台数は、09年は400～450台であったが、足元では190台まで減少している。積載率も60～70%程度と低い。引合いは小ロット・短納期物件が中心である。在庫は耳付き母材がかなり多くなっているが、11月末以降は漸減する見込み。足元の店売りマーケットは厳しい状況が続く。

(三ノ橋鋼材・角田善彦)

【東 京】

H・Mファブのフル状態、中小シャーに届かず

前回の大阪での会議で都心部での超大型物件が多数控えている事が、我々中小シヤ業者にとっても今後の大きな期待になるとの認識を皆さんにお話しました。実際に大手町界限では、再開発物件の建築が進み、今現在読売新聞社本社ビルの建て方がかなり急ピッチで行われています。しかし、それ以外の物件についてはなかなか工事の手が進まず、当初年内から予定されていた物件も歯切れが悪くなってきている（先安感からなのか？）。

いつもながらで、物件自体が無くなる訳では無いと言われながら工期がズレて年度内と言われていたかと思えば、今では7～9月へと半年後ろにズレる様相になってきているようです。これはSファブ＝メーカーシヤの状況です。HクラスMクラスファブ＝我々中小シヤはどうかと言うと、聞こえてくる話は関東の各クラスFABとも、年度内はフルフル状態で、これからの受注は新年度入り後夏場に掛けての物件で動いているとの事の様ですが、我々にはその空気（実態感）はまったく感じられず、いったいどこの話なのか聞きたい位です。この様な時は大体商社鉄骨が

大幅に影響を及ぼして、仕事量はあるが価格は最安値を要求され、それに対応する会社に集中して発注されているケースになっていると思われます。起用されるファブも地方ファブまで満遍なく工程管理をしながら発注され、シヤも地元業者が起用されると言う、過去にも同じような現象が繰り返されており最悪期の最後が近づくとこの様な事が起こっているように思います。建築全般での動きとしては幾らかでも雰囲気が変わって来ている様に微かに感じられていると思います。

年度内は新たな動きは望めないとしても、年度替り以降新物件に期待をしたい所ですが、現状は産む苦しみとか、もう一辛抱と言った環境からは抜け切れずに、今が大底と言われている最悪状況の中でステイセざるを得ない3ヶ月でした。浦安鐵鋼団地内の同業者でも建産機の落ち込みが更に追い討ちを掛けたように低迷が続く格好になっている様にも聞いています。長いトンネルの先にやっと微かな明かりが見えてきた様だとも言ったと思いますが、明かりの強さも、大きさも変わっていないと思われます。

そうした中、国民の信を問うと言う事で、年末に衆院選挙が行われる事になり、その選挙に向けたパフォーマンスが始まりました。どの党がどうのこうのは関係なく、今置かれている長期デフレからの脱却に向けて、それがバラマキと言われ様が何としてでも財政出動を持って経済再生、景気回復を達成させる事のできる、口先だけではなく実行力のある国会議員が選ばれる事を願うばかりです。

(丸東興業・秦弘志)

【東 海】

大型建機や造船激減

中部地区9月～11月の産建機向け店売りシヤの動向は、基本的には前回と変わらず、本来なら年末に向かって仕事が忙しくならねばいけないのに、仕事は低調で、物件は少なく小ロット短納期に追われています。

特に納期に関してはますます短納期となった感じです。

前回、中国向けの自動車設備が秋口から出てくるという話をしましたが、中国の暴動などの影響でキャンセルになり、消えてしまいました。

前回報告したように老朽化した工場クレーンの架け替えに関する切板や、また、土木などは防災物件と言われる護岸工事などの物件を取れている業者もいますが、中部近県では、余り取れないと関東や北陸の方迄、仕事を探しにいく業者も出てきました。

『市場情報 H24.12』

金型関係は、近々では仕事が少なく、1～3月になれば出てくると言う業者もいますが、自動車生産のお膝元の割には寂しいかぎりです。

一方、ヒモつきシャーも今まで好調だった部門の中で、急激に仕事が無くなってきたものが出てきました。

建機 リフト

10月迄フル生産の状態でしたが、11月の時点で5パーセントダウンして、来年の3月には10パーセントダウンする予定になっています。

これは、海外向け(特に中国)の輸出が落ち込んでいる影響ですが、前回報告したより落ち幅は減っています。

これは、このリフトメーカーが元々中国には、余り輸出していないのと、中国の拠点が小さいことで、影響が少なかったと思われます。

クレーン シャベル

相変わらず東北復興向けの小型杭打ち機は、見込み生産を含め好調ですが、輸出用の中型クレーンは、一部秋から少し出てくるという情報もありましたが、相変わらず低調です。

東海地区では関わっているところは少ないですが、鉱山向けの大型建機の落ち込みが酷いと報告がありました。

トラック

10tクラスのトラックは、前回報告したとおり年内は好調な生産を維持しています。

一部では来年から部品の海外移管の話は出ていますが、現状では来年の1～3月は好調に推移すると思われます。

鉄道車両

前回の報告と同じで、相変わらず、北米向けや台湾向けの車両の製作をしており、以前N700系を製作していた時と比べると80パーセントの仕事量になっています。

産機 鍛圧プレス

10～来年3月辺りまでは、7～9月同様国内物があるので、ある程度の仕事

『市場情報 H24.12』

量は確保していますが、来年3月以降は国内物が一巡して、中国向けやヨーロッパ向けが余り良くないので、どのくらい落ちるかは判りませんが、生産量が落ちそうです。

その他工作機

ペンダーやシャーリングの機械は、前回よりも20～30%落ちました。

専用機

IT専用機は前回国内生産が無くなってきたと報告しましたが、メーカーの意向で海外材料調達、海外生産に切り替わってきました。

専用機の中では木材を切断するプレカット用の木工機が好調で、これはほとんどが国内向けの為、震災による住宅の立替事業に関するものだと推測されます。

造船 デッキクレーン

前回仕事が半減したと報告しましたが、仕事量が7割ダウンとなり、その切板を製作していた社員を他の部署にまわす多能化は当然のことで、出勤日を休みにしたりして対応に追われています。

この3ヶ月の間一番仕事が減ったのは大型建機と造船関連ということになりました。

昇降機

以前から海外ビルの物件が出る出ると言われてきましたが、今もって中々動かず、年内はこのまま終わりそうな気配です。

前回報告したように、生産台数は変わりませんが、部品自体が海外移管されているので、国内の切板は大幅に減っています。この傾向は来年も変わらず、部品によっては具体的な海外移管の数字も出ています。

ヒモ付シャーは、前回以上に大型建機と造船の落ち込みが激しくなっており、それに関っている業者は悲鳴を上げています。

リフトは思いの外、落ち幅が少なかったのは幸いでしたが、店売りヒモ付とも全体的にみれば、前回と変わらず悪い状態のまま新年を迎えることとなります。

来年3月末には、金融円滑化法の期限が来て与信問題も出てきそうです。

(鈴木鋼材・鈴木康司)

【東 海】

建材需要上向きも実感なし

建材関係は上向きに推移しており、ファブの山積みは来春まで確保している（一部のファブは夏まで）。しかし鋼材全般にわたり引合い実感はない。ファブ間の価格競争等により、工期前の案件情報が最近入りにくくなっている。小ロットかつ短納期に加え、開先・穴埋めなど2次加工セットの注文が増え、その対応に忙しいが、販売量は若干増にとどまっている。シャーの稼働率は70%前後である。今夏以降、加工賃がダウン傾向にあり、その改善が急務となっている。

（中部鋼鉄・南 信年）

【大 阪】

造船・建機需要、大きく減少

1. 全般

（1） 需要

各需要分野も仕事は少ない。

造船、建機向けの需要は大きく減少している。

建材向けも仕事は多くない。但し、H・MクラスFABは物流倉庫などの仕事を持っており、年度末ごろまで仕事は埋まっている。そういった仕事の短納期小ロットの切板は出ている。店売りも相当厳しい。九条地区のシャリング業者は、その日暮らしになっている。

（2） 一般店売

とにかく仕事・引合いも少なく、少量でも取り合いになっている。

値下げ圧力強い。客先を守るためには対応せざるを得ない状況。

2. 需要部門別

（1） 橋梁

足元は、低位安定状態。今後、年度末に向けて増えてくるかどうか。

年間入札量は25万t～29万tの予測（某FAB役員）。想定どおり、もしくは若干多い？

開札も進んでいる。受注するFABに注目している。今年度は横河ブリッジが受注増か。

NEXCOの発注も多いため、実際の切板加工時期が来年度になる物件が多い。

サクラダの倒産の影響は限定的。

（2） 鉄骨

関西の大型物件は新ダイビルぐらい。すでに地下部切板は切断開始している。物件としては

『市場情報 H24.12』

あと1年は続く。その他物件はショッピングセンター、物流倉庫などが多い。
切板よりも形鋼が主体。H・Mクラスは仕事確保するも、鉄骨単価は上がっていない模様。
ゼネコンの受注競争も厳しい。

名古屋駅前3物件、関東物件の引合いもあり、関西FABで加工することも期待しているが、
単価については相変わらず厳しい指値を受けている。

(3) 建機

需要減が大きい。シヤの余剰能力が、店売りなどに影響し単価をさらに下げている。

(4) 産機

産機・SPOTなどは、相変わらず少ない。小ロット・短納期。

(日鉄神鋼シャーリング・浅野博之)

(株玉造・棚橋浩司)

【九州】

建産機、引続き低調

産機・・・ (九州地区)

7～9月との比較ではあまり変化はない。

相変わらず小ロット・多品種・短納期の対応。

産機の加工量が減少していく中、今後の価格のトレンドは下向きだが、

今の所はなんとか維持している。

グローバル調達に加えて、国内仕入れ先の数も増やし、数社以上に見積りを出し
調査する企業も出始めた

従って受注までに時間を要し、決定時から納期が殆どない状態。

9月の報告で、一搬製品が海外よりの調達が増加と報告しましたが、9月以降、
国内企業の手持ちが少なく、国内企業に海外調達価格に相当する単価で外注するケ
ースもでてきた。

湾岸機械等も海外より受注できる案件は沢山あるが、価格が底値近い物件もあり、
受注しても各部品を外(外注)には出せない状況です。

シリンダー関係については、状況が悪く、目標の月商に届かず、下方修正した目標には何とか達している状況。今後は更に厳しい状況となる。

建機・・・ 小型建機については、下半期は一時的に若干増加したが、需要の不透明感から12月以降、年度末まで生産調整に入る見込み。

欧州景気の回復の見込みはなく、13年度計画は8%減の下方修正。

大型建機協力企業・・・海外の製造拠点の落ち込みは50%以上だが、国内は下半期又は次年度は上半期と変わらない台数の生産が予定されているが、全に落ち込みが予想される。

(門倉剪断工業・白水正幸)

【九州】

建築は好調、建機メーカーは年明けから生産調整へ

- ・シャーの足元は『忙しいのに儲からない』状況となっている。切板単重は軽く、かつ開先・穴あけも多く加工トン数が上がらない。
切板単価は下落傾向にありまだ底が見えてこない。造船・建機の需要不振の影響で、仕事を確保したいシャーが安値受注に動くことが懸念される。
- ・鉄骨案件も増えてきているが、ゼネコンの価格競争は相変わらず厳しく、それに連動して切板の指値も厳しいものとなっている。
- ・10月の九州の倒産状況は負債額・件数とも対前年比+38%と増加している。今後の銀行の対応の変化が懸念される。

<建築>

大型案件は無いものの、小規模案件（物流倉庫、官公庁案件、店舗等）が比較的数量多く出ており、ファブは繁忙となっている。

一部の鉄骨案件では価格が上がったものもあり、ゼネコンもファブの山積みを予約するなど今までと違った動きも見られる。

来年度も大分駅再開発、鹿児島市立病院の大型案件も見えており、今年よりもやや明るさが見えてきている。

<土木>

橋梁では大型の案件が無く、中小案件のみとなっている。一部ファブでは海洋構造物を安定的に受注しており忙しくなっている。

4～10月までの公共工事の請負額は対前年比+12.7%と6ヶ月連続で増加しているが、年トータルでは例年とさほど変わらず低位横ばいと予想される。

<産業機械>

設備投資は一部の大手ユーザーや食品業界や通信鉄塔やメガソーラなどに見られるが、まだ限定的で全般的な広がりを見せていない。

発電プラントは計画があるものの、なかなか具体的なゴーサインが出てこない。

建機メーカーも新機種向けの作りだめが終わり、年明け頃から生産調整に入ってくる。

(1～3月は▲30%の予想)

<造船>

造船メーカーのピッチダウンの影響がはっきりと出始めた。小規模造船メーカーほど手持工事量は少なく、数量減少の幅は大きいものとなっている。新規受注は少ないが、あっても赤字受注を余儀無くされている。

造船メーカーは生き残りをかけ、大幅なコストダウンを試みており、仕入先全てにコストダウンの要求をしている。

また、高稼働を維持してきた加工メーカーも安値受注に走っている。

<シャープ業者>

前回9月時点と比べシャープの稼働率は全体的に上がっている。但し、上記の通り分野別ごとに跛行性があるため、各社まちまちとなっていると思われる。シャープの山積みは2ヶ月先までしか見えず、その先は不透明である。

(豊鋼材工業・橋本勝美)

3. 高木理事長の感想

本日の報告を窺って、シャープを取り巻く需要状況は、前回(9月)の内容と基調的には変わっていない。我々シャープが当面直面する変化・相違は何か、2点あると思う。①リーマンショック後、東日本大震災を経て、今年で4年目に当たる。当初、同ショックから回復するには5年から10年かかるとみられていた。その後、中国情勢という不安定要素が加わった。これがプラス・マイナスどちらに転ぶか全く予想がつかない。中国要因に攪乱されて、局面ごとに一喜一憂していてもしょうがないと思う。来年も今年と同じように、この大きな“変動要因”に向き合って、何とか舵を切って乗り越えていくしかないだろう。次に②母材メーカーの動向が焦点になるだろ

『市場情報 H24.12』

う。メーカーも足元大変な状況のまま、来年を迎えようとしている。内外需とも不振で、中でも造船はいわば構造的不況に直面しており、ダメージは大きい。能力比70%操業を余儀無くされる中で、材料供給先をどう開拓・確保するかが大問題である。新価格体系移行への動きも出てくるかも知れない。シャ業としてこれらにどう対処するか考えておく必要があるだろう。我々自身の付加価値を高めるしか方法はないと思う。来年も、受け身的なイメージの“厳しい”ではなく、“難しい”1年になるが、能動的に働きかけて道を切り開いてまいりましょう。引続き来年もご協力のほど宜しくお願い致します。良いお年をお迎え下さい。

(参考) ≡ 出席者 ≡ (順不同敬称略)

- 委員長・ 酒匂 (京浜産業)
- ゲスト・ 高木 (理事長/富士鉄鋼センター)
- 〃 高木 (東海支部長/三和鐵鋼)
- 東 北・ 大柴 (J F E 鋼材)
- 東 京・ 池田 (ニューエイジ)、
角田 (三ノ橋鋼材)
三浦 (富士鉄鋼センター)
- 東 海・ 鈴木 (鈴将鋼材)
南 (中部鋼板)
山村 (熱金鋼業/ゲスト)
岡 (東海鋼材工業)
堀場 (三和鐵鋼)
- 大 阪・ 浅野 (日鉄神鋼シャーリング)
棚橋 (株玉造)
- 九 州・ 橋本 (豊鋼材工業)
- 事務局・ 柘野

4. 次回の開催日時・場所

第156回市場委員会

平成25年3月8日(金) 12時 東京鉄鋼会館706号室

以 上